

総務省からのお知らせ

～ 保護者の皆様へ～ お子様が安心してスマートフォンを利用するために

満18歳未満のお子様スマートフォン等、インターネット接続機器を利用される場合、保護者の方は次の点に十分注意してください。

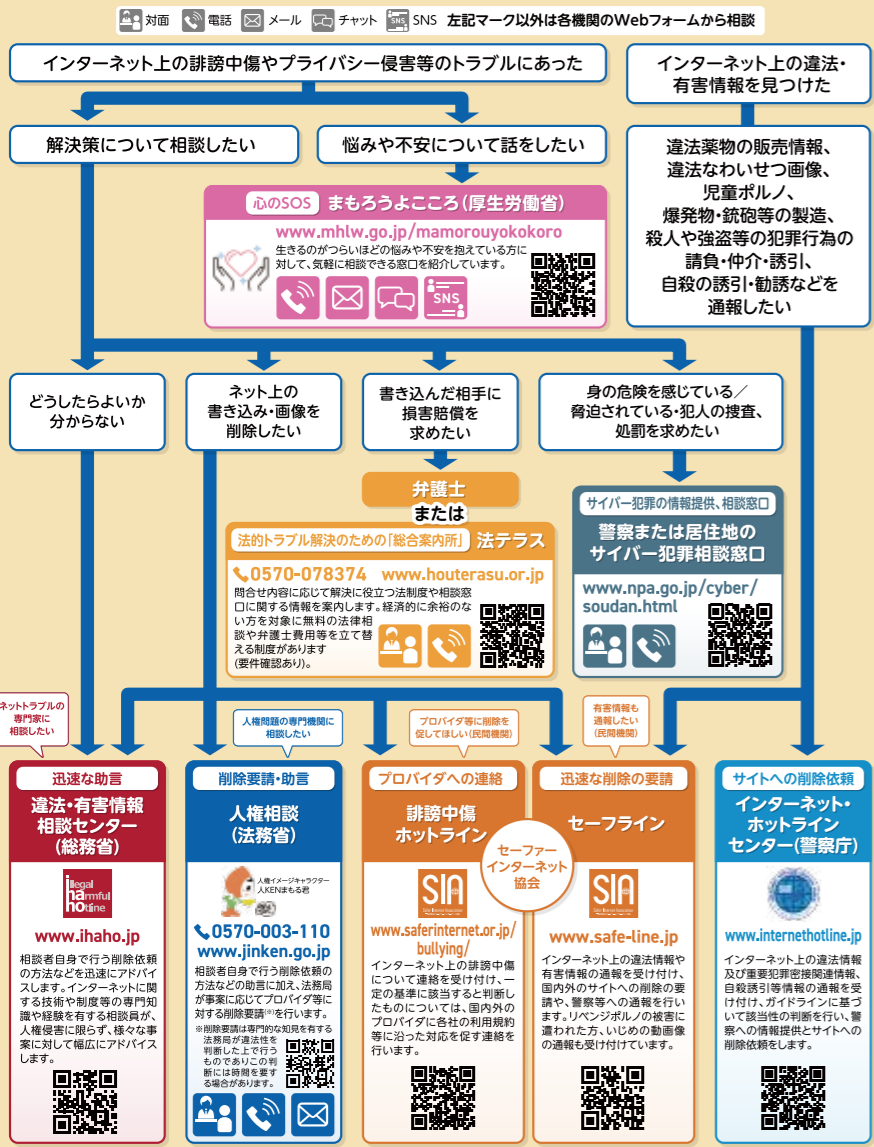
- ① 適切にインターネットを利用する
SNSを利用して子どもたちを言葉巧みに誘い出し、事件やトラブルに巻き込まれる深刻な事件が発生しています。インターネットに関する知識、情報モラルやコミュニケーション能力を親子で身につけ、正しく利用することが重要です。
- ② 家庭のルールを作る
長時間利用によるネットの依存症も増加しています。適切な生活習慣が身につけられるように、お子様と一緒に話し合い、それぞれの家庭のルールを作りましょう。「利用時間は夜9時まで」など、ルールは具体的に決めることがポイントです。
- ③ フィルタリングなどを設定する
「フィルタリング」は、知識が十分でないお子様が不用意に違法・有害サイトにアクセスしないよう制限する機能です。子どもたちが事件・事故に巻き込まれないようにスマートフォン等には必ず「フィルタリング」を設定してください。

実際に起きたトラブル事例をもとに、予防法と対策法をまとめた「インターネットトラブル事例集」や、相談窓口のご案内を総務省ホームページに掲載していますのでご活用ください。

■ インターネットトラブル事例集
https://www.soumu.go.jp/main_content/000872813.pdf
(検索ワード:総務省インターネットトラブル事例集)

■ インターネット上の誹謗中傷に関する相談窓口のご案内
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/reference/img/reference.pdf
(検索ワード:総務省インターネット上の誹謗中傷への対策)

インターネット上の書き込みなどに関する相談・通報窓口のご案内



【本件に関するお問い合わせ先】
総務省 北海道総合通信局
情報通信部 電気通信事業課
電話:011-709-2311(内線:4704)

発行 令和7年(2025年)3月

札幌市子ども未来局 子ども育成部
子どもの権利推進課
〒060-0051
札幌市中央区南1条東1丁目
大通バスセンタービル1号館5階
TEL: 011-211-2942
FAX: 011-211-2971
Eメール: kodomo.kenri@city.sapporo.jp
札幌市公式HP「子どもの権利のページ」
https://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/index.html

さっぽろ市
02-G01-24-2796
R6-2-1787

子どもにとって大切な権利
・安心して生きる
・自分らしく生きる
・豊かに育つ
・参加する

子どもがきらりと輝くまちに

子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第32号
令和7年3月発行

子どもにやさしいまちを考えよう!

札幌市では「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例(子どもの権利条例)」に基づき、様々な場面で子どもが意見を言う「子どもの参加」の機会をつくり、まちづくりに子どもの視点を生かす取組を進めています。
令和7年度からスタートする新しい子ども総合計画「さっぽろ子ども未来プラン」の策定にあたり、子どもにやさしいまちはどのようなまちか、そのためにはどうしていくべきか、様々な機会を活用し子どもたちに考えてもらいました。

さっぽろティーンズ委員会が考えました!

提案・意見募集ハガキや、他都市の子どもたちとの意見交換も参考に、「子どもが考える子どもにやさしいまち」をまとめました。

子どもが考える「子どもにやさしいまち」

子どもが権利を自覚し、守られるまち
子どもが「自由に意見を発信できる」「その意見を大人が受け止めてくれる」環境をつくるのが大切。そのためには子ども自身が意見を発信する権利があると自覚し、周りもその権利を認めるが必要になる。
まずは、「大人が聞いてくれる」と感じられる環境を目指すことで、子どもが自信をもって自分の意見を発信することに繋がる。

こころとからだを守られるまち
子どものこころやからだを守るために重要なことは、大人や地域が配慮をすること。通学路の見守りなど子どもの安全のサポートや、子どもが「自分のありのままの姿を受け入れてもらえる」と感じられるよう、子どもが話しやすい環境づくりが大事。
子どものコミュニケーション力を上げるためにも、大人と子どもが交流できる機会を増やすといい。

安心・安全なまち 子どもにやさしいまちには、「安心・安全なまち」であることが柱となり、一番大切であると考えました。

子どもが安心して過ごすことができるまち
子どもは居場所が各々にあることで安心することができる。居場所の重要性を理解し、子どもが実際に行ってみることができるよう、行きやすい環境づくりも大切。
全ての子どもが安心して居場所を見つけ、心から楽しいと感じて生活することができるよう、一人も取りこぼさないまちを目指るといい。

夢や将来を自由に選べるまち
子どもが夢や希望を持つことは、子どもの幸せや自信・自己肯定感アップにつながる、なくてはならないもの。そのため、成功体験や成長につなげられるよう、子どもや大人が学び、経験できる場所を作り、広めていくことが大切。
また、頑張る子どもが安心して挑戦できるよう、夢や目標に肯定的な考え方を広めることも大切。

さらに、他都市との交流を受けて・・・

意見を述べ、反映されるまち 自分の意見に共感してもらうことで、安心して意見を述べることができる。さらに、子どもの意見を反映するように努めることで、もっと意見を言いやすい雰囲気を作る。子どもがまちづくりについて提案し、いつでも子どもの意見を聞くことができるような環境づくりが重要。

環境にやさしいまち 子どもが主体となった取組や企業と連携した取組で環境にやさしいまちづくりを進めていくことも大切。さらに企業等が行うアップサイクル※1などの活動を広報していくことで、サーキュラーエコノミー(循環経済)※2を目指していけるといい。

※1【アップサイクル】捨てられるはずの廃棄物を再利用して、元の製品よりも付加価値の高い製品を生み出すこと。
※2【サーキュラーエコノミー】従来の3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取組に加え、資源投入量・消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑制等を目指すもの。

子どもの提案・意見募集ハガキ

子どもからの提案・意見募集ハガキは、子どもたちから市政やまちづくりについて提案や意見を広く返信ハガキにより募集する取組です。
市内の小学4年生～高校生を対象に、「子どもにやさしいまち」をテーマに意見を募集したところ、260 通の意見が集まりました。



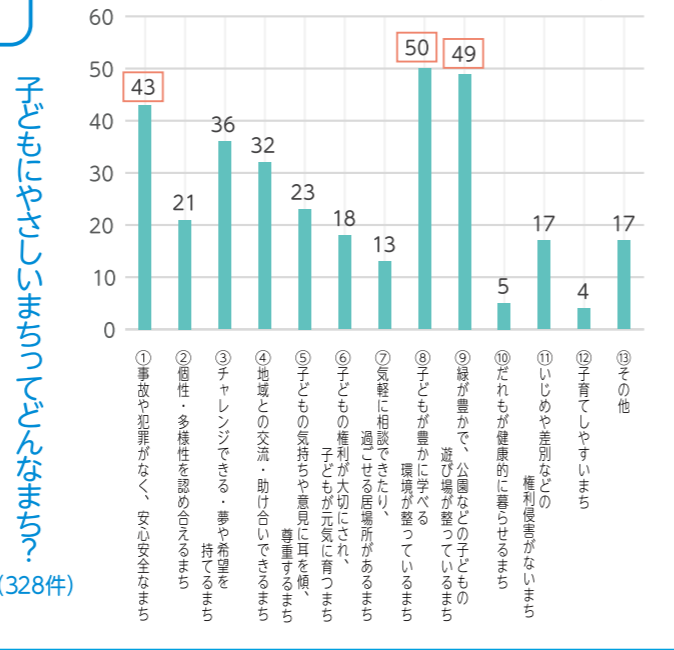
1 子どもにやさしいまちってどんなまち？

まず、子どもが考える「子どもにやさしいまち」とはどんなまちかを考えてもらいました。

意見で一番多かったのは、「子どもが豊かに学べる環境が整っているまち」。次いで「緑が豊かで公園などの子どもの遊び場が整っているまち」、4番目に「チャレンジできる、夢や希望を持てるまち」と、学び・遊び・体験といった、子どもが豊かに育つために欠かせない経験ができることが子どもにやさしいまちに大切であると考えている子どもが多いことがわかりました。

次に「事故や犯罪がない安心・安全なまち」となり、やはり安心して生活できることを子どもたちも重要視していることがわかりました。

このほか地域のつながりがまちづくりに欠かせないという意見や、子どもの気持ちや意見に耳を傾け尊重することが大切という意見も多くありました。また、気軽に相談できる、いじめや差別などの権利侵害がないまちを望む声もありました。



- 子どもたちが楽しめる、思いっきり遊べる場所があるまち
- いじめや人の嫌がるものが全然なく、誰もが安全に安心して暮らせるまち
- たくさんの人や自然と関わることができるまち
- 互いの良いところを見つけられるように努力し、認め合えるまち
- 子どもの意見一つ一つを逃さないでしっかり聞いてくれるやさしいまち
札幌もそんなまちになってほしい
- すべての子どもたちがよく学び、よく動き、よく食べ、健康やかに成長できる場を設けることができるまち
- 子どもにやさしいまちは、子ども自身がその地域に住んでいることに誇りを持って暮らしたいと思う
- 公共の場が安全に整備されていて、事故などが起かない一人一人が安心して暮らせるまち

2 子どもにやさしいまちにしていくなために必要なこと

次に、子どもにやさしいまちにしていくなためにはどのようなことが必要かを聞きました。特に多かったのは、公園や学校の環境整備で、子どもたちの日常に関わる施設を充実させるという意見です。次いで、多様な学び・体験ができる環境を整えるといった意見で、職業体験やボランティア活動など体験機会を増やし、将来の視野を広げることが子どもにやさしいまちにつながるという意見がありました。また、地域のつながりの機会を望む声も多く、安心・安全のためにも地域活動を増やした方がよいという意見も多かったです。

このほか、みんなが思いやりをもつこと、大人が子どもに寄り添う、子どもの意見を否定せず耳を傾けるなど、互いを思いやる心が大切という意見も多くありました。

今回みなさんからいただいた意見はどれも重要な視点であり、札幌市が目指す子どもにやさしいまちに向けて、みなさんからの意見を参考により良い取組を進めていきたいと思ひます。

子どもからの意見の一部を紹介

- みんなが思いやりを持って行動をすることで笑顔になる人が多くなると思っています。
- 一人一人が個性を否定することなく、その人のいいところを認めることや、そのための環境づくりが大切だと思ひます。
- 子どもは意見を聞くだけでなく、その意見についてしっかりと理解してあげる心が必要だと思ひます。
- 子どもたちの声を聞く場を学校内で設けたり、気軽に相談できたりする環境づくりが必要だと思ひます。
- 子育て世帯へのサポートを充実させる。
- 地域のイベントやボランティア活動を通じて子どもたちに社会の一員としての意識を育むことができるので、地域ぐるみで子どもたちを育てる環境を作ることが長期的な視野でのまちづくりに貢献すると思ひます。
- 子ども食堂など家や学校以外のコミュニティは必要だと感じているので、もっと広げていくことが大切だと思ひます。
- 子どもの権利を尊重する意識を社会全体で高めることが必要であり、大人だけでなく子ども自身も権利を知り、認識を持つことが大事。
- みんながお互いを認め合えるまちにするには、市が子どもを守る姿勢を見せることが一番だと思ひます。

子ども議会

子ども議会は、子ども議員となった子どもたちが主体的に札幌市のまちづくりについて話し合い、発表する活動を通して、市政への子どもの参加及び意見表明の機会として、平成13年度から毎年実施している取組です。



令和6年度は、小中学生の子ども議員27人が参加。「子どもにやさしいまち」を題材に、子ども議員自らが設定したテーマについて、計5回の委員会活動で課題や意見を話し合いました。話し合いでは、関連する部局の市職員との勉強会を通して学び、高校生・大学生のユースファシリテーターのサポートを受けながら意見をまとめ、まとめた意見は、市長に直接報告しました。



「ユニセフ札幌ラブウォーク」でも聞きました
令和6年7月7日に開催された北海道ユニセフ協会主催のユニセフ・札幌ラブウォークの参加者にも「子どもにやさしいまち」を考えてもらいました！
●意見提出：30人



テーマ	私たちが考える「子どもにやさしいまち」概要
体験事業	平等で気軽に誰でも札幌らしい体験ができるまち ・もっとたくさんの子どもたちにイベントを知ってもらうために、札幌市の子ども向けのイベントを検索できるサイトをつくらう
小学校教育	子どもの意見を尊重し、子どもが自立できるまち ・指定された学習方法で嫌々学ぶのではなく、子ども自ら考えられる環境にしてほしいため、小学校の授業でタブレットを利用するとき、子どもが主体的に判断できるようにしよう
防災防犯	SNSのデマ情報が少なく、安心安全なまち ・防災アプリ『そなえ』には多くの機能がおり、多くの人に知ってほしいため、広報さっぽろを利用して、『そなえ』の認知度を上げよう ・そして、『そなえ』のようなアプリで、デマ情報にも自分で気づけるようにしよう
環境	クマにとっても人にとっても安心安全なまち ・駆除の対象となるヒグマをできるだけ減らすため、市街地と森林の間置エリアをもっと整備したり、唐辛子などのヒグマが苦手な匂いをつける杭を使い、ヒグマを市街地から遠ざけよう ・ヒグマ対策と併せて、木材の活用を進めることで、地球温暖化等の対策もしよう
ジュニア相談	相談が身近にできるまち ・相談の仕方がわからない、予約方法がわからない、そういった子どもたちのために、相談場所を明確にしよう ・子どもたちの思いを知ってもらうために、学校でアンケートをとろう ・もっと相談相手を身近に感じられる環境にするため、札幌市の相談窓口が学校で出前授業を実施したり、カウンセラーが学校のイベント等に参加して子どもたちと仲を深めよう

札幌市の考え方 (札幌市子ども未来局)

みなさん、たくさんの意見をありがとうございました。
札幌市では、令和7年度からスタートする新しい子ども計画を考えるにあたり、主役である“子ども”の意見を聞き、子どもたちの考えも取り入れた「子どもにやさしいまち」を目指していくため、子どもが参加する様々な機会を活用し、広く意見を伺いました。
どの意見からも、子どもたちがいろいろなことを調べ、深く考察し、現状を踏まえ意見を考えてくれたことが伝わりました。みなさんの意見から、もっとだれもが暮らしやすい札幌市になってほしいという願いが感じられ、札幌市のまちづくりを真剣に考えてくれる子どもたちを嬉しく思うとともに、今後の取組を進めるにあたっては、まちづくりの一員である子どもたちの意見をしっかりと取り入れていかなければならないと感じています。
子どもたちが考える「子どもにやさしいまち」では、まず安心・安全に暮らせる環境を望む意見

が多くありました。さらに、子どもたちが地域など、人と人とのつながりを重要に感じている意見も多くあり、地域との交流の場を作る、気軽に参加できる地域のイベントを開催するといったアイデアもいただきました。
子どもが心身ともに安心・安全に暮らせる環境は特に重要です。子どもがより一層安心して暮らせるよう子どもが気軽に相談できる環境を充実させるとともに、地域ぐるみの活動を進め、地域全体で子どもを見守り育てるまちを目指して取り組んでいきたいと思ひます。
また、子どもらしく遊んだり学んだりできる環境を整えてほしい、誰もが様々な経験や体験をできるようにしてほしいといった意見も多かったです。子どもが様々な人と関わり、いろいろな経験を積むことは豊かな成長に欠かせません。札幌市では現在も子どもを対象とした様々な体験の取組を行っていますが、そうしたイベントの開催が子どもたちに届いていないという声もありま

した。より多くの子どもたちが参加できるように、みなさんの意見も参考に、参加方法や広報の仕方など工夫していきたいと思ひます。
今回みなさんからいただいた意見を参考に、さっぽろティーンズ委員会で話し合いを行い、「子どもの権利が守られるまち」、「こころと体が守られるまち」、「夢や将来を自由に選べるまち」、「子どもが安心して過ごすことができるまち」を、子どもが考える子どもにやさしいまちとしてまとめました。
さっぽろティーンズ委員会、そして今回みなさんからいただいた意見は、もっと子どもにやさしいまちにしていくなために、どれも重要で欠かせない視点です。新しく策定する子ども計画を実施するにあたっては、みなさんの意見やアイデアを参考に、もっと子どもにやさしいまちになるようより良い取組を進めていきます。
最後に、札幌市のまちづくりに、市をはじめ、地域や大人だけでなく、子どものみなさんの協力が欠かせません。これからも身近なところから、札幌市のまちづくりに関わってもらえると嬉しいで